



新編

卷

一

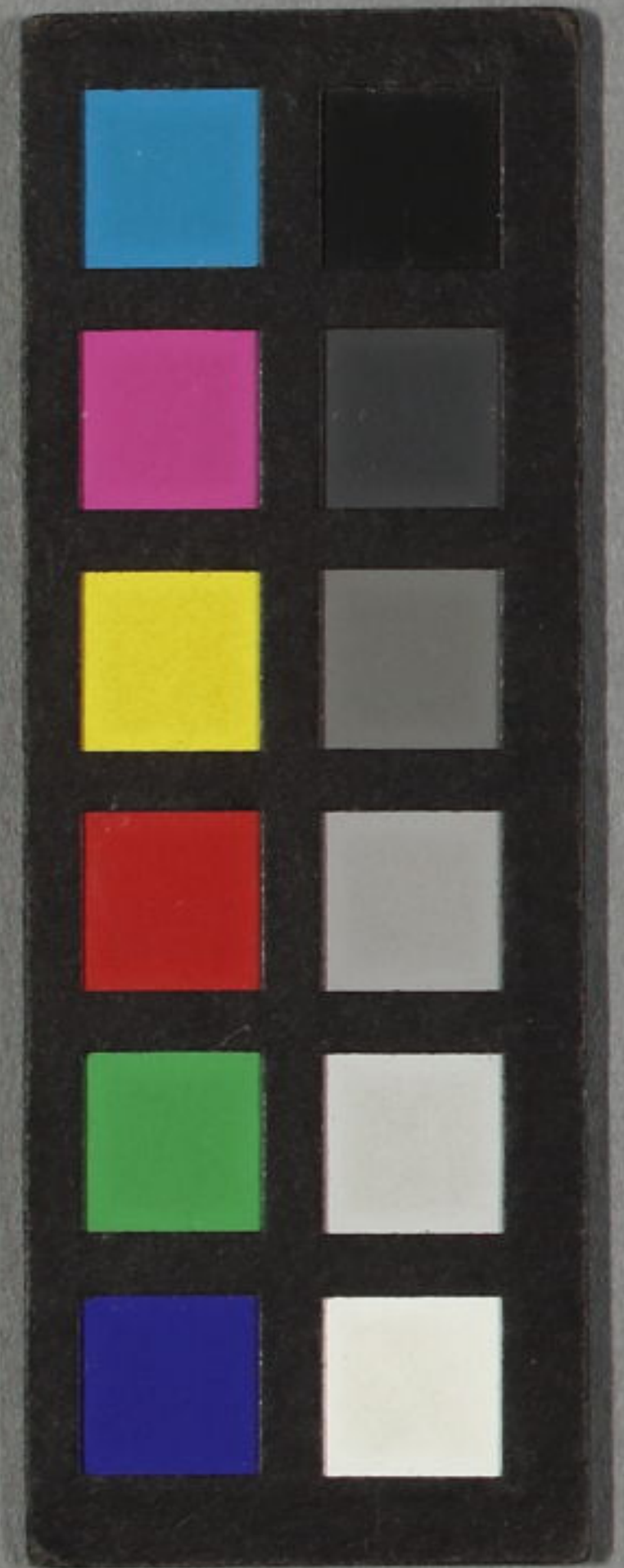
梅

抄集

馬琴伝
同好會



母の口





馬琴作

天保田中
孟春再振

升屋因貞画



金瓶梅第一集

序二

金瓶梅二百回清の康熙乙亥の敬齋謝頤の序の作と云
 又鳳洲の年集といふ抑彼書の演るもの則宋の巨商
 娼樂の語説の九友應伯爵ホと玉皇廟の美談と結ぶ南場小あつた
 大の時武松の景陽岡の虎と搏する風声あり併に浪妾潘金蓮等も武植
 郎を妻我の西之面則水滸と同意て文を易くする有り畢音水滸の西門啓
 金蓮が奸通の毒悪の談と父母とをて作設る但武松が復讐の一條の策
 八十七回在り是より先西門啓の胡制衣の房薬と過飲と遂ふその身を喪ふ策
 七十七回在り是より先武太郎と藥鴉せし恩報をの張竹坡が評論の金瑞が水
 滸傳の外書批評の做らるる因て勸懲の傳會しく勉て作者の派員はもの
 ろ彼書の宜娼道導然るる君臣父子の間ゆる讀んたふ所のもの言くありあ
 ろ小唐山の書曹ホ水滸西遊二国演義と金瓶とを四大奇書とを
 願ふ文の佳妙ると猥藝時好の稱へるらん予その視之と氣をその趣



向の國俗の浮世物真似とらぬゆゆの條理の一箇もな彼の乱朝惡
 俗の情態よく寫せしめ彼書舶來せしより以來書名漸々此間の高
 りあつたり雅俗只その書名を知ざる得下り讀めあると稀に見る彼
 書中央方言洒落ののりやうは正もあつた直通俗の譯文を彼の俗語の
 疎の讀み知らぬ論一自の彼書縁で戲れ今這策子と書せ
 ちも敢鳳洲の類單の做らるる編發端八卷の二は素より彼書の本は既
 成予が意近おはせし是より下もその猥藝其甚しに刪去し易く其善の
 話説を以てその取らるるを敢て敢て敢て敢て敢て敢て敢て敢て敢て敢て
 の也たの故の翻案筆削總之傾城水滸傳と同トクも具眼の看官知
 音の諸君子甘一鹹一を抵嘗く作者の用意を知らるるも亦九一十
 子とのてを敢て敢て敢て敢て敢て敢て敢て敢て敢て敢て敢て敢て敢て

文政十四年辛卯春正月吉日新鑄 曲亭馬琴自叙





誰玉

還金 奪 | 駕玉 奪

美勾津 曾加 氏措

乃玉 平

條部 黒五郎

條部 之 妻子 馬



矢瀨

文具 兵衛

羽と 蜚と

優

神 佛 子

桂 益

大原

武大郎

人魂乃の
左遠那流
君平止度武登母
襲奈安它志下之
衣之通魔

愚
完



望月五紋次

望月之
妻
沖見

虎平搏

怨を
復毛
後
片の
各を
あけ
今
本

愚
完



小
廝
武
松

主
管
横
六





和漢 駿足 繪本高麗獄 北尾重政筆 名馬盡

花鳥寫真圖會 同画 極彩色

繪本ぬぢ袴 柳川筆 極彩色

漬物早指南 台治主人著 初編全冊

餅菓子手製集 初編

手造酒法 後編

女年中祝事始 小本 全一冊

女用文艶詞

女今川千代友鶴

雛形小倉百人一首

源氏かるた 極彩色 管入

同雛かるた 管入

肆書 其泉堂藏板

新編 金瓶梅 第一集



上

芝罘 泉南 版



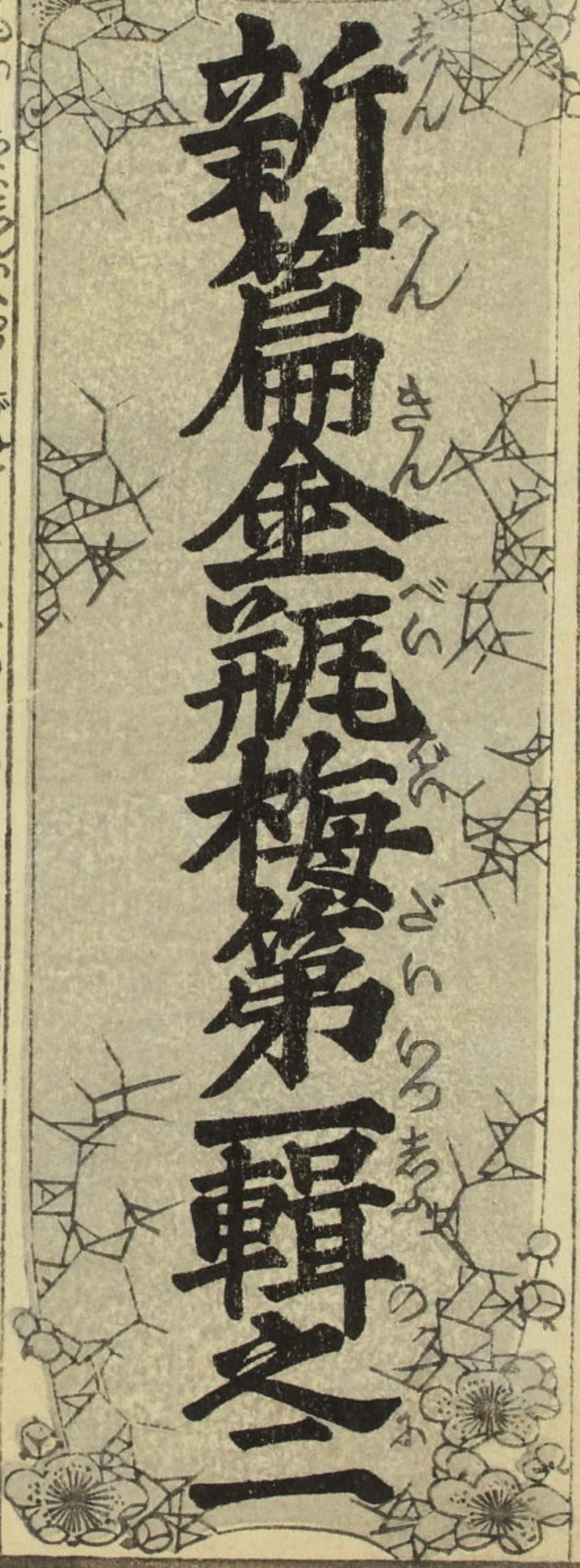
曲亭馬琴著

每編八弓合本四冊辛卯孟春印發

既自是上者
大原新田

飾故御錦做一色黑白立地見京兆明斷

新篇金瓶梅第輯之二



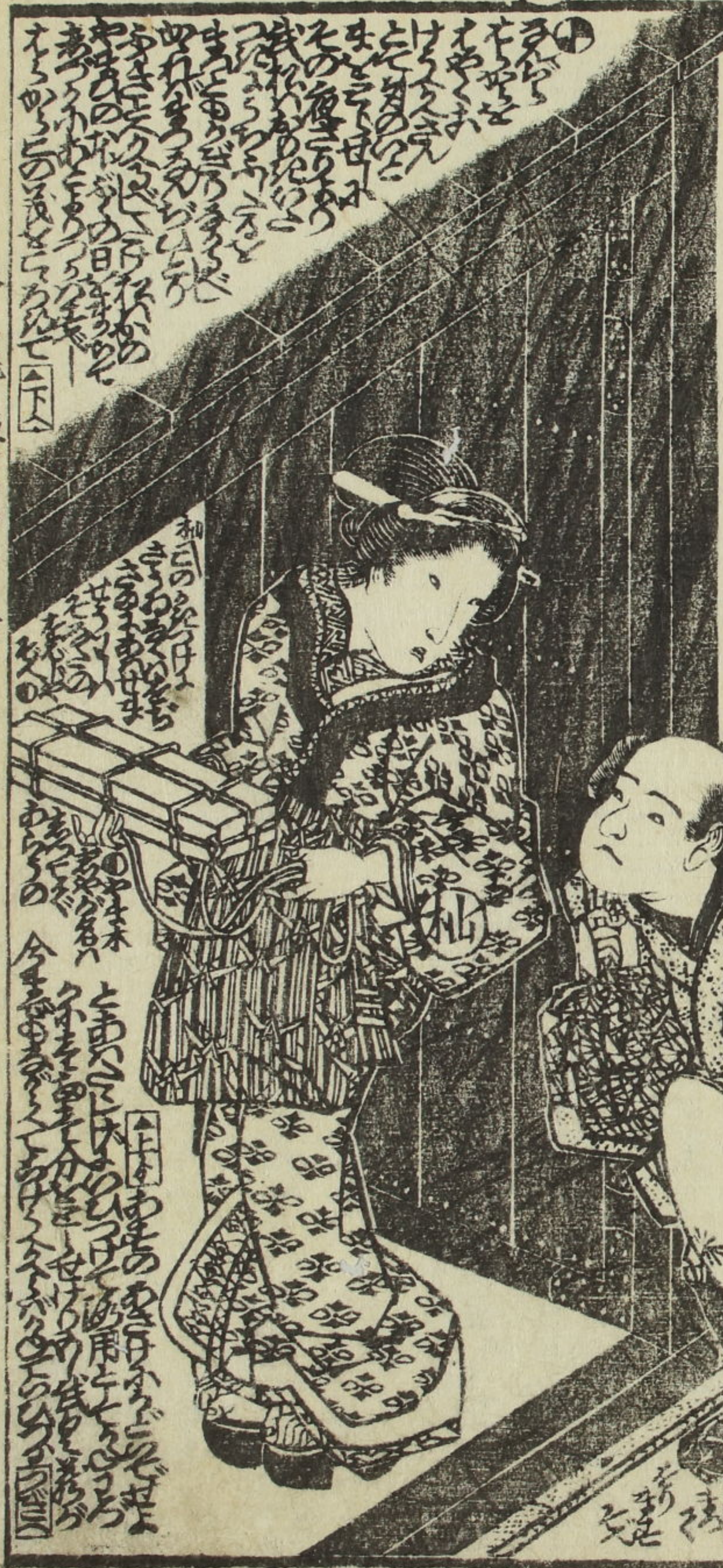
此下者
竹條部舊迹

倒所親金為焦根榮枯倏忽變痴漢薄命

歌川國安畫

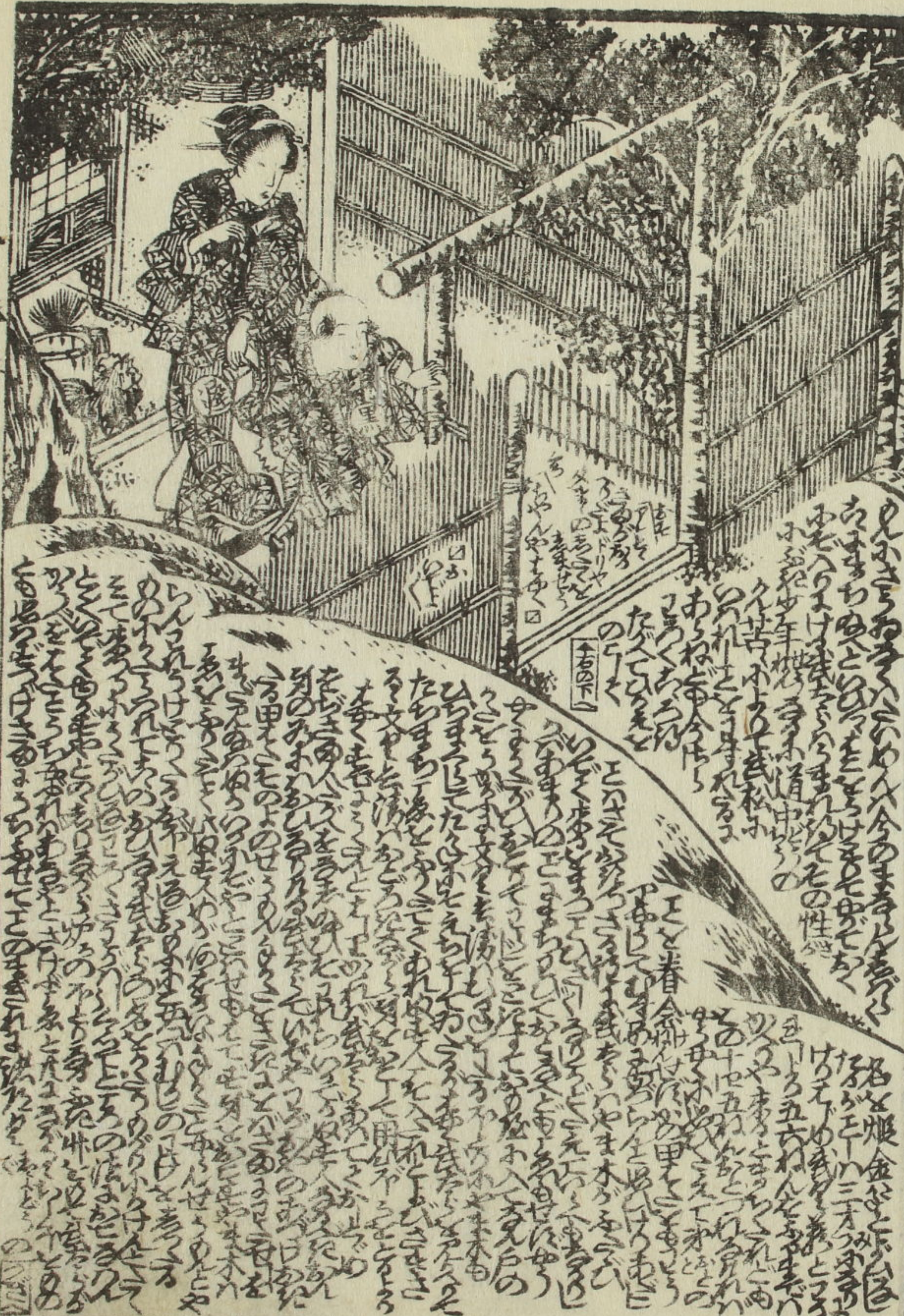
江戸芝神明前書肆和泉屋市兵衛

三
此の三巻は又武松の事なり... (Vertical text describing the scene and characters)



三巻の事なり



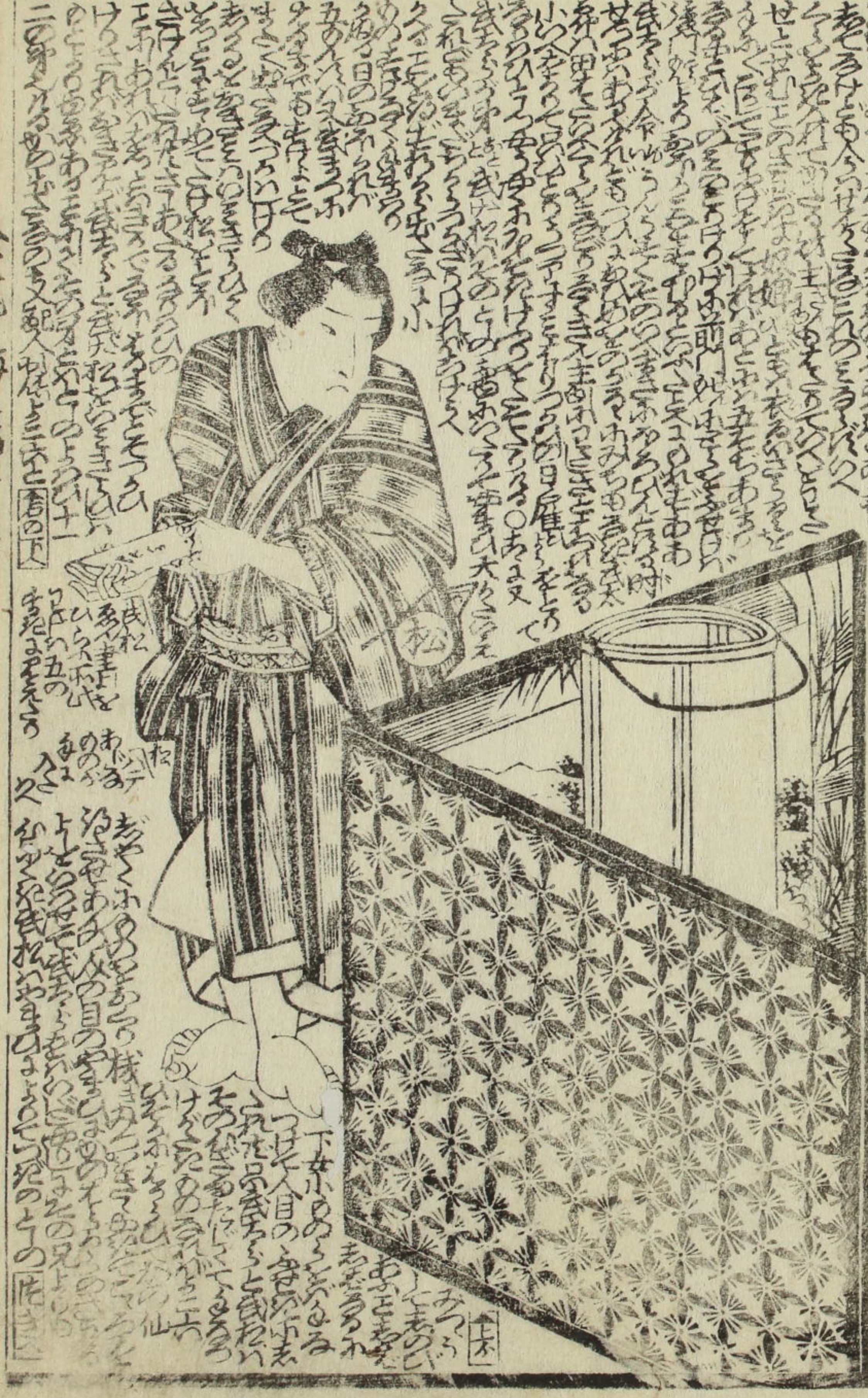






Vertical columns of handwritten Japanese text, likely a play script, surrounding the illustration on the right page.

Vertical columns of handwritten Japanese text, likely a play script, surrounding the illustration on the left page.



馬琴作



家傳神女湯... 精製奇應丸... 熊胆黑丸子... 婦人經中の妙茶... 弘明神下 瀧沢氏

國安画

書物地本問屋 三島町前 甘泉堂和泉屋市兵衛	録目略版藏堂泉甘肆書	新編金瓶梅 五編 曲亭馬琴作	金昆羅船利生纜 九編 香蝶樓國貞画	裏表忠臣藏 三篇揃 國貞画	春榮百人一首大全 一大本	常盤百人一首 一中本	麗玉百人一首 一小本	美艷仙女香坂本氏製
		源氏繪畫 中本一冊 漢齋英泉画	風俗伊勢物語 六篇出來 貞秀画					

特別

A13

4454

1